



和話輪43号

編集・発行  
社会福祉法人 慈仁会  
特別養護老人ホーム 山口苑  
〒651-1412 西宮市山口町下山口 1203-1  
TEL: 078-903-5591 FAX: 078-903-5511  
特別養護老人ホーム 名塩さくら苑  
〒669-1146 西宮市名塩さくら台 2-44  
TEL: 0797-63-3200 FAX: 0797-63-3211  
令和2年2月発行

# 敬老会

ご長寿をお祝いし、職員やボランティアさんによる演芸を楽しんでいただきました。



名塩さくら苑

ご長寿の方へ表彰状を授与



懐かしの曲を大正琴で演奏



ご利用者と職員が協力して缶積みにも挑戦



素敵なアンサンブルにうっとり♪



山口苑



ヨーヨー釣れたヨ〜♪



私の手もキレイにしてね〜  
(マニキュアコーナー)



売り切れ御免! 増員して焼いてま〜す!



職員お手製の「みやたん」くじ♪



ご利用者、ご家族、そして地域の皆さん、多くの方にお越しいただき、たこ焼きや射的などの屋台も大盛況でした。



どんなお宝が釣れるかな?  
(千本引きコーナー)



狙うは一等賞!

ロックオン!



さ〜て、何本入るかな〜?

# ボランティアさん活躍中！

慈仁会では、地域社会との繋がりを大切にしており、ボランティアの皆さんに支えられています。

いつも大変お世話になりありがとうございます。

一部ではございますが、両苑でご活躍中のボランティアさんをご紹介します。



衣類の繕い

月に一度、ご利用者の衣類の繕いに来てくださっています。お気に入りの衣類も慣れた手付きであつという間に元通り!!

傾聴ボランティア



毎週1回、ゆっくりとご利用者のお話を聴いてくださり、思い出話に花が咲いています。

※ 傾聴 … 耳を傾けて熱心に聴くこと

## ボランティアさんを募集しています！

趣味や特技を活かして活動されている方もいれば、全く初めての経験を楽しまれている方もいらっしゃいます。皆さんの「やる気・勇気・元気」を自分のため、そして社会のために使ってみませんか？施設見学だけでも構いません。

興味を持たれた方は、気軽にお電話ください。お待ちしております♪

山口苑(担当:平山) TEL:078-903-5591

名塩さくら苑(担当:谷口) TEL:0797-63-3200

生け花



野の草花 山の木々  
季節の移り変わりと  
花器のゆた表現し  
て

ご本人直筆のコメント

ドライヤー介助

月に数回、デイサービスご利用者のお話し相手や入浴後のドライヤー介助をお手伝いしてくださっています。





## 和話輪 42号

編集・発行  
社会福祉法人 慈仁会  
特別養護老人ホーム 山口苑  
〒651-1412 西宮市山口町下山口 1203-1  
TEL: 078-903-5591 FAX: 078-903-5511  
特別養護老人ホーム 名塩さくら苑  
〒669-1146 西宮市名塩さくら台 2-44  
TEL: 0797-63-3200 FAX: 0797-63-3211  
令和元年 8月発行

### コーラス隊 JIN

職員有志でコーラス隊“JIN”を結成。  
様々な苑内行事にゲスト出演し、懐かし  
の童謡や歌謡曲まで幅広いジャンル  
をお届けしました。



### ボーリング大会

両苑の職員とその家族、合計80名が集結！  
熱戦が繰り広げられました。



### 職員交流会

おいしい料理や  
お酒に話も弾み  
ました。



## 法人創立 25周年記念行事

～感謝の気持ちを皆さんと共に～

平成5年に創立した慈仁会が25周年を迎えることができましたのは、  
ご利用者、ご家族、ボランティア、地域の皆様のご支援のおかげです。  
感謝の気持ちを込め、1年通じて、様々なイベントを行いました。

### 日帰りバス旅行

徳島の大塚国際美術館に行っ  
てきました。  
名画をのんびりと鑑賞したり、  
バスの中では姉妹施設との交流  
もあり、心身共にリフレッシュで  
きました。



### 宝塚ホテル食事会

両苑合同の食事会は今回が  
初めて。「はじめまして」の  
人もいれば、異動経験者は  
「久しぶり！」の声が飛び  
交う食事会になりました。



### 行事の無料開放

毎年恒例の「秋祭り」  
では、ご家族にも屋台  
やゲームの無料チケットをお配りし、楽しんでい  
ただきました。



### Quo カード作成

職員がデザ  
インした  
Quo カード。  
職員やボランティアさんにお配  
りしました。



地域を見つめて

六甲有馬ロープウェー

# 紅葉物語



山口苑・名塩さくら苑からすぐ近くにある有馬温泉の魅力をお伝えする為、取材に行ってきました。

有馬といえば「温泉」が有名ですが、ロープウェーに乗ると、四季さまざまに表情を変える六甲山のダイナミックな景色を上空から楽しむこともできます。

皆さんも令和の秋は、ロープウェーの旅などいかがですか？



有馬の紅葉を見る為、ロープウェーへ



紅葉は全体の8割程度



12分間の空中ドライブはあっという間



1,820円の往復きっぷを購入



何か動物の顔に見えませんか？



でっかい猫がお出迎え(^・ω・^)



いざ、出発！



有名なマスの釣り堀を発見！



神秘的な造りの六甲枝垂れ(展望台)

わ!わ!わ!

和話輪41号

編集・発行  
社会福祉法人 慈仁会  
特別養護老人ホーム 山口苑  
〒651-1412 西宮市山口町下山口 1203-1  
TEL: 078-903-5591 FAX: 078-903-5511  
特別養護老人ホーム 名塩さくら苑  
〒669-1146 西宮市名塩さくら台 2-44  
TEL: 0797-63-3200 FAX: 0797-63-3211  
平成30年4月発行

## 法人創立25周年を迎えて～感謝の言葉～

慈仁会は、時代の流れにのりつつも常に未来を見据え、ご利用者に選んでいただき、また、地域や職員から愛される法人であり続けたい。感謝の気持ちを忘れず、慈仁の心を持ち今後も精進してまいります。

どうぞこれからも引き続きご支援くださいませ。

理事長 石津 早代

慈仁会が今日あるのは、諸先輩方のお蔭だと感謝致します。2025年には一人が高齢者となる超高齢者社会を迎えることとなります。今後とも地域に愛され、ご利用者が安心して暮らせる施設となるよう職員一同頑張ります。

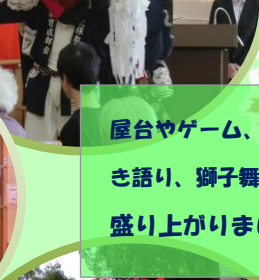
山口苑施設長 陶木 重明

慈仁会創立 25 周年を迎えられるのも地域の方々のご支援があつてのことと、大変感謝しております。更なる高齢者社会に向かう中、慈仁会が持つ特養・デイサービス等 14 事業が連携し、施設と在宅の両面で貢献してまいりたいと考えております。

名塩さくら苑施設長 原武 道範



## 秋祭り in 名塩さくら苑



屋台やゲーム、ギターの弾き語り、獅子舞いの登場で盛り上がりました!



山口苑から参上!



## 焼き芋 in 山口苑



さくら苑から来ました!



山口苑で収穫したさつまいを炭火で焼き、身も心もホッパホッパ!

# 新関西衣料サービス株式会社

# 工場見学

いつも当然のようにアイロン掛けされた綺麗なシーツが届きますが、ご利用者の皆様に使用していただくまでには、どういった工程を経ているのか？当法人設立時からお世話になっている新関西衣料サービス(株)の工場見学に行ってきました。

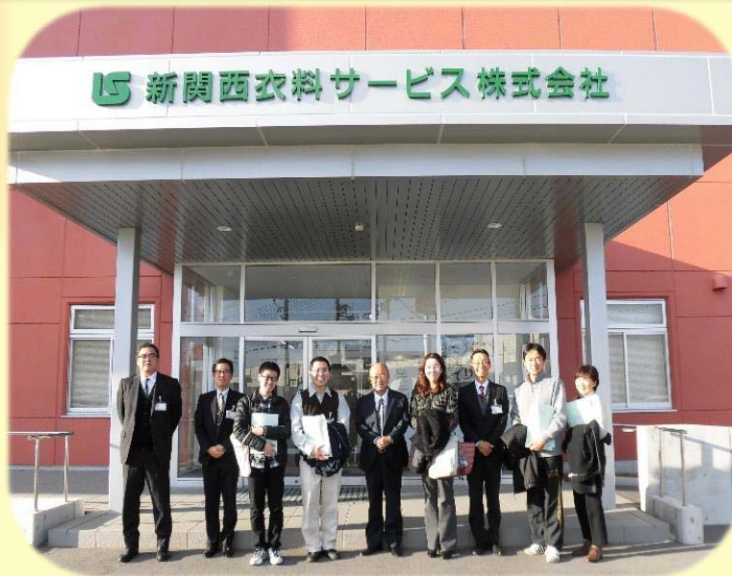
自動バッグ搬送システムにより、シーツを投入後洗剤・助剤の投入を含め洗濯から乾燥までの工程をコンピュータにて自動制御することにより安定した品質が提供出来ます



施設や病院から回収された感染による注意の必要なリネンは酸化エチレンガスにより消毒後、洗濯されます



工場内では、施設や病院から洗濯に出されたシーツが洗濯後の清潔なシーツと混ざることのないよう、不潔区域と清潔区域が隔壁で完全分離されています



役員の方々と記念撮影



高性能の金属探知機により、針はもちろんホッチキスや錠剤の包装紙まで探知し異物混入を防いでいます



最新の設備のなか、テキパキと働く従業員の方々がとても印象的でした



このように、ご利用者に安心して、心地よく休んでいただけるように、最新のシステムと衛生管理を徹底した工場、シーツは綺麗に仕上げられています。

# わいわい輪

第10号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成18年1月7日

## 地域を見つめて

## ちょっと寄り道しませんか



皇太神社  
(こうたいじんじや)



浄橋寺  
(じょうきょうじ)



JR生瀬駅から東へ歩いて500mほどのところに、浄橋寺と生瀬皇太神社が、道路を隔て向かい合わせのように建っています。

浄橋寺は嘉禎4年(1238)の秋、西山上人が有馬温泉に遊行される途中、太多田川付近で山賊に襲われた際、その人たちを諭して武庫川の急流に橋を架けることをお勧めになりました。そして、出来上がった橋を「浄橋」と名づけられ、橋を通る旅人から橋銭(通行料)をとって生活の助けとするように指導されたそうです。

仁治2年(1241)には武庫川に橋をおかけになった因縁から、この景勝の地に浄橋寺を建てられました。皇太神社はその2年後の仁治4年(1243)に勧請されたそうです。



「よいさ〜」「よいさ〜」の掛け声勇ましく、細い生瀬の町並みを、逞しい若者たちが地車を引き回していきます。

その昔、生瀬にはお城があったそうで、そのため皇太神社は、戦乱に巻き込まれ社殿が炎上、そ

の後再建を繰り返し、現在は生瀬の氏子会の方々に維持・管理されています。

平成16年9月には地車(だんじり)を新調し、その地車の彫り物の中に西山上人が山賊達を諭している様子を彫っています。浄橋寺と生瀬皇太神社は今も昔も深い繋がりがあるようです。

生瀬にはお城があったことも、地元でご存知の方が少ないようですが、蓬萊峡の太多田川沿いのこじんまりしたところに温泉跡があると聞きました。近くにお住まいの方でも知っておられないようです。石造りの小さい浴槽があり、少し上の方に「生瀬温泉跡」と彫りこまれた石碑が残っています。

今まで、ただ通り過ぎていた所も、気をつけて眺めているといろいろな事が解ってきます。



だんじりの装飾



氏子会の方々

今まで好評いただいておりますシリーズ技に替え、『地域を見つめて』と題し、より深く地域の事取材していきたいと思っております。読者の皆様で、「こんな事知っていますか?」「実は…」等こぼれ話がありましたら是非お知らせください。

# わいわいわ!

## 和

## 話

## 輪

### 第9号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成17年7月7日

### シリーズ技 蛍と人間の共存を求めて

子供たちの手描きポスターになつてから蛍を捕る人が減つた。



「あっ!おった!」。今年も有馬川には沢山の人が蛍を求めて集まった。昨年の台風23号の影響によりその数は激減したが、近年有馬川では6月の上旬をピークにゲンジボタルのイルミネーションが私たち

を楽しませてくれている。農薬やゴミ、生活排水などにより川が汚れ減少していた蛍がなぜ今。下水道整備などの成果でもあるが、そこには「元々人の生活圏にしか生息しない」蛍が再び人間と共存できるようにと静かに支えている「蛍の保護活動」がある。

その記録をとり続けているのが、山口、船坂校区青愛協の本田三延さん。蛍の飛び始める5月上旬から7月初めの間、調査ポイント約6キロを毎晩歩いて蛍の数、気温、湿度などを記している。何があってもこの10年間一日も欠かしたことがない。

また青愛協の保護活動では、蛍に親んでもらうためのマップの配布やウォークラリーの開催。そして蛍が住みやすい環境を整えるために、街灯の点灯時間・草刈り時期・河川工事などへの配慮を地域・行政・企業などに対し交渉するなど、理解・協力を求める活動をしてこられた。一昨年開通した阪神高速の照明も光の拡散を抑える工夫がされている。

私たちは、蛍の保護活動の中に“養殖”や“放流”等の『技』があるの

ではと期待した。しかし実際は、蛍の捕獲防止やその生活環境を守る為の啓発など、自然本来の生態系を守る地道な活動であった。人間の暮らしが利便性を追求する現代、蛍と人間の共存を求める活動には人の気持ちを動かす『心の技』がある。

ここ数年、本田さんは地域の学校や団体から要請を受けて『蛍の話』に出かける事も多い。この話を聞いた人たちが理解を深め仲間になってくれること。そしていずれはNPO法人として活動を広げ、『蛍保護条例』を作っていきたい…と本田さんの思いは広がる。

今年も有馬・船坂川には地域の小学校から寄せられた380点ものポスターが、山口中学校の生徒たちの手で掛けられている。本田さんは毎晩の巡回にいつもペンチを持ち歩く。外れかけた子供たちのポスターを修理するために。



ポスターの掲示を手伝う中学生

ホタルの乱舞→



上田 作氏 撮影

蛍の様に光る“蛍もどき”を腰からさげて巡回にまわる本田さん。見物者の質問にもやさしく説明。



10年間続けられている発生状況報告書

シリーズ「技」地域の様々な技などを取材し、紹介していきます。お楽しみに!

### ホタルの一生



# わわわわ!

## 和話輪

第8号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成17年1月7日

### シリーズ技



かぐら

### 神楽芸の技



利用者と職員がチャレンジ

1本の番傘が開く。番傘を回転させてその上に色糸で巻いた毬を乗せ更に回転を加える。次にリングそして、五合杓・一升杓と乗せて最後は「皆様の杓・杓(益々)の繁盛を…」となる。この他に馴染深いものに「南京玉簾」がある。あ〜、さて、あ、さて、さては南京玉簾〜と始まるこの芸は、室町時代頃よりお伊勢参りや巡礼の道中で旅費の不足を工面するため芸を披露したのが、次第に全国に広まったといわれ、特に「お伊勢神楽」は有名である。この神楽芸の魅力に取りつかれたのが宝塚在住の「浮楽屋玉之助(うきらくやたまのすけ)」こと大橋さん。大学を卒業してからこの道に入り込みすでに約6年。「この魅力は、お客さんとの一体感を感じることができる。」という。単純でありながら出来そうで出来ないところの面白さがある。お客さんと一緒にリズムに乗って創りあげる技。ちなみに南京玉簾の「南京」は“かわいい”という意味があり、女の子の芸として栄えてきたらしい。



大橋さんの舞台芸

このような神楽舞の歴史は古く「神霊をかむくら(神座)に迎えるため、巫



一座の皆さん

女(みこ)が旋回を主とした所作を演ずることに始まったとされ、その後伊勢神宮や熱田神宮などで広まり悪魔払いのため唐草模様の布で母衣をつけた獅子頭もこの頃から伝わり、江戸時代には熱田派と伊勢派の太神楽組合も結成されたが、いずれも寺社奉行に属していた。」とある。(“大道芸”とは歴史も異なるものであるとのことです。)

テレビやビデオが普及する中で“観る”だけの一方通行より心が通い合う“神楽芸”が小学校や地域、海外まで広まりつつある。

懐かしい昔を思い出してみませんか…ガマの油売り・飴細工・バナナの叩き売り・チンドン屋・独楽回し・ケン玉・ベッタン・紙飛行機・シャボン玉…

参考文献：柏書房  
江戸の大道芸  
(高柳金芳著)



只今、やる気のある方、老若男女募集しているそうです是非チャレンジを…

お問い合わせ先 **遊びの玉手箱(有)エスアールエー**  
TEL. 06-4399-0366

# わいわい話輪

第6号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成16年1月7日

昨年の秋、名塩地区で生活をされていた利用者の皆さんが恒例の秋祭りに出かけたところ、今年の新調された地車だったのでとても良かった、との事。早速、編集委員がこの地車新調に携われた東之町、畑田会長に突撃インタビュー!!



東之町自治会の方がた

## ■ 改修準備委員会から改修実行委員会へ

名塩地区は昔から祭りが活発に行われ、各地区ごとに地車は合計8台ある。東之町の地車は百年以上の歴史があり、10年程前から、特に台木(足廻り含む)、柱、屋根の腐食が激しかった。補修用の費用が積み立てられてはいたが、一部補修も費用は高い。次々と補修箇所も発生する恐れがある。町内で幾度となく検討を重ね、総会も3回開催して新調に踏み切った。

## ■ 彫物は二人の彫師の作品

大阪の工務店に直ちに依頼した。後ろ三面の飾り彫物は大阪型地車で後世に残る源平合戦や、日本神話の歴史場面など。今にも飛び立とうとせんばかりの鳳凰の羽の躍動感、刀を振り回す兵士の立体感、取材した我々もびっくり。全体の重さは3t。彫物部分と台木などは良質の

## シリーズ 技

## 名塩東之町に新調地車登場

けやきの木で出来ている。先端木口は名塩らしさを創出する「名塩和紙」を貼り付けて祭りには登場したそうだ。



新調された地車



地車の彫物



みんなで引く地車

ここ名塩地区も少子高齢化が進んでいる。地車の新調については様々な意見が町民から出されたが、今やらなければこの財産を守ることはできない。町の活気を取り戻したい、そんな思いを地車に乗せ、今年の秋も見事な地車が名塩の町を練り歩くだらう。



地車を引いて町を練り歩く

# わいわい

和

話

輪

第5号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成15年7月7日

「袖下踊り」ってご存知ですか？この踊りは西宮市の無形民俗文化財に指定されています。袖下踊りの始まりには様々な説があります。その中でも1300年程前、孝徳天皇が有馬温泉へ行幸の際、村人がその喜びを身振り・手振りで表現し、特に肘から下の両手の手振りを主として踊ることから「袖下踊り」と名付けられたとの説が最も有力です。

「地元の子供たちは小学校から中学校までの約6年間、学校の運動会や盆踊りでこの袖下踊りを踊っていることになるんです。だから踊りそのものの伝承は心配ない。でも大小2つの太鼓に合わせて唄う音頭、この音頭とりが独特の節廻しで大変難しいんです。音頭のできる若者の育成が、一番の課題ですね。」と、山口地区に残る文化財を長年にわたり保存・伝承に努められる「山口町袖下民踊育成保存会」



「さあ 一緒に！袖下踊り」 (昭和60年頃)

会長、野口照之さんは力強く話されていました。

一方、子供たちの様子を、西宮市立山口小学校教頭森本規子先生は「ゆっくりしたリズムは、テンポの速い音楽を聞いて育った今の子供たちにとって馴染みが薄く踊りは非常に難しいと思います。しかし、ここ数年の間、三味

シリーズ  
技

西宮市指定  
無形民俗文化財

山口袖下踊り

線・お琴のクラブや茶道クラブを子供たちが中心となって作ったんです。子供の中に和の精神、文化伝承の精神は



山口地区での盆踊り (昭和60年頃)

確かに育っていますよ。」と、素敵な笑顔でお話下さいました。

実際、地元で開かれる盆踊りでは、保存会の方たちに交じって子供たちも堂々と踊りこなしていました。又、やぐらの中央にはベテランの音頭取りと一緒にかわいらしい太鼓のたたき役や、絶妙なタイミングで合いの手を入れる子供たちの姿もありました。大人と子供が一緒になってお祭りを作り上げる、この姿は単なる盆踊り、という域を超え「袖下踊り」という一つの伝統を作り上げているようにも見えます。

この西宮には様々な技があります。私たちはこれからも技の保存と伝承のために地道な活動を続けておられる方々を追い続けたいと思います。



山口小学校運動会での袖下踊りの演技風景

# わいわい輪

第4号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成15年1月7日

## 10周年記念事業～桂 小春団治さん等、来たる～

十年一昔といわれるように、山口苑も10年という年輪を重ねて参りました。50床でスタートした当苑も、今では特養90床、ショートステイ10床に発展し、ご利用者が明るく生活されています。これもひとえに皆様のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。山口苑では、10周年記念事業を行いますので、地域の皆様もご一緒にお楽しみ下さい。

■とき 平成15年2月8日(土)  
午後2時～4時

■ところ 山口苑

■内容

上方落語

出演者:落語家 桂 小春団治さん

ラテン音楽のつどい

出演者:アルパ奏者 内海 淳子さん  
(南米パラグアイの民族楽器を奏でて頂きます。)

## ●10年を振り返って●

社会福祉法人慈仁会<sup>じにんかい</sup>及び山口苑が設立された平成5年は、皇太子様と小和田雅子様がご成婚され、「Jリーグ」が流行語大賞となった年です。未来に羽ばたく良き年でした。

### ●3つの節目●

この10年を振り返りますと、節目が3つあったように思われます。1つは、準備の時期です。姉妹法人である内海慈仁会有馬病院の一室で法人設立申請、国・県・市への補助申請、又、設備・備品の購入等に携わった和田弘文初代施設長は、「まさに八面六臂<sup>はちめんろくび</sup>の仕事<sup>しごと</sup>を背たろうた感じだった」と語っていました。2つ目は、平成7年に起こったあの阪神・淡路大震災です。利用者ご家族の消息判明に1ヵ月半を要し、又、当時建設中だった新館はその工事を中断せざるを得なかった時です。3つ目は、介護保険制度が導入(平成12年度)された時です。福祉分野に経営という手法が取り入れられ、利用者・事業者双方に戸惑いと、混乱がありました。

### ●苑での活動●

このような時期を経て、現在、苑では春は遠足、夏は夏祭り、秋は運動会、敬老会、冬は餅つき、節分等の恒例行事を始め、喫茶・居酒屋(苑内)でのふれあいやサークル活動で趣味に興じ、ご利用者は楽しまれています。又、食事の時間も

## 山口苑開設十周年



開設当時の山口苑(平成5年)

楽しみで、メニューも豊富でおいしいと大変喜ばれています。とりわけ選択メニューは好評です。健康には十分気を配っておりますが、体調を崩された時は協力医療機関(内橋内科医院、大槻歯科医院、高田上谷病院、神戸アドベンチスト病院、有馬病院等)へ受診しています。

### ●これからの山口苑●

介護報酬単価の見直しに伴う収入減、特別養護老人ホームと老人保健施設の一本化、特別養護老人ホームへの株式会社の参入等、今、厳しい情勢となっております。当苑では、サービスの質の向上や経営基盤の確立に向けて、職員一同奮闘しているところです。今後とも、皆様のご支援ご協力をお願い致します。

# わいわいわ!

和

話

輪

第3号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成14年7月7日

名塩さくら苑が位置する名塩の地は、古くから紙すきの地としてその名が知られています。そこで、地域との情報交流を目指す「わいわいわ!」(和・話・輪)の編集委員4名は、今も、伝統産業の「技」を引き継いでおられる谷野武信さんを訪ね、「名塩和紙」についてお話を伺いました。



谷野武信さん

名塩の蘭学通りから小道を入った所に、谷野さんの紙すき場があります。

初めに、和紙の原料となる雁皮(がんび)を見せて頂きました。一見、繊維の多いかんばんのような感じで、その雁皮に現地で採取される泥土をすきこんでいきます。次に紙



すきの実演。取材が冬だったため、凍るような水の中の作業・冷くなった手を、手風呂(七輪でお湯を沸かしている釜)で温めながら進めて下さいました。



名塩和紙の特徴は「泥を混ぜることにより、日焼けもせず、乾燥にも強く、虫食いも少ない」とのこと。また、独特の光沢があり、昔から京都の寺など屏風や襖紙として珍重されたそ

うです。現在でも金箔や銀箔を圧延する箔打紙として京都や金沢へ送られ、金屏風や仏壇の金箔などに欠かせない存在となっています。ご自宅にも名塩和紙で作った屏風など見事な作品がたくさんあり、それも一つ一つ丁寧にを見せて下さいました。

私たち編集委員は、江戸時代から受け継がれた名塩和紙の技法を目の当たりにし、歴史の重さを感じるとともに、今更ながら、このように素晴らしい伝統工芸品が身近にあったのだと誇りに



思った一日でした。

名塩和紙の紙すき技術をお持ちの方が、谷野さんを含めお二人となっていました。現在谷野さんは後継者を育てられていると伺い、大変うれしく、心強い思いがしました。



◎シリーズ技◎  
郷土の伝統産業

名塩の紙すき場を訪ねて

### 谷野さんが人間国宝に

今回、取材させていただきました谷野さんが、本年6月、人間国宝に選ばれました。「名塩雁皮紙」も昭和58年の兵庫県指定文化財に続き、国の重要無形文化財に指定されることになりました。

### 紙すきの起こり

1638年に刊行された俳書「毛吹草」に、“名塩鳥の子”(『鳥の子』とは、黄色味がかかった紙の意)の名があり、17世紀初頭には越前からその技術が伝わったといわれ、400年の歴史を誇っています。

### 名塩千軒という繁栄ぶり

泥入りのためニセモノが作りにくいことから、元禄時代、藩札の地紙として地元の尼崎藩はもとより、九州方面からも注文を受ける程の繁栄を誇りました。

### 卒業証書を名塩和紙で

15、6年程前から、名塩小学校をはじめ、地元の小学生は自分たちの卒業証書を自分たちの手で作ろうと、毎年名塩和紙学習館で紙すきを行っています。

# わいわい

和

話

輪

第2号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成14年1月7日

「摂津の有馬（山口町）に小刀一丁もって行けば飯が食える」と言われたほど、かつて全国各地よりその地方の伝統技術をもった職人がこの地に集まって来たと言われ、その「有馬籠」の伝統工芸と産業の発展に寄与されてこられた作田良彦さんを訪ねました。

取材の場所は、山口中学校の東側に真新しい白壁と黒いタイル色調の「徳風会館」で早速館内に展示されている貴重な資料や「有馬籠」を見せて戴きました。

## 最盛期は206戸(約500人)が生産に!



作田良彦さん

ここは、全国でも良質の「真竹」が自生していた為、江戸の中期より古くから湯治場として知られていた有馬温泉の浴客に土産物として農閑期を利用して作り始めたのが数種類の技法による「有馬籠」の発祥とされている。その後、江戸時代末期から次第に各地へ出荷され、大阪の商人よりオランダへ輸出された記録も残っている。

明治8年(1875)に10人程で組合を結成し、小売店が出来たとされている。その後製茶輸出の外装箱に「有馬籠」を利用することになり、地場産業の活性化の弾みと共に「有馬温泉客」の土産物から脱却し貿易品としての「有馬籠」として、国外にもその名を広めることになった。昭和37年には、山口町の約8割(206戸・約500人)が家内分業での総動員生産に拘わっていた。

## 山口時間

子供は竹の“薄皮むき”でお小遣いをもらい、「山口に嫁をやると付き合いが派手で困る」といわれていたが、家内分業はすべて手作業での工程であった為“夜なべ・朝飯前”の仕事となり会合があっても、いつも時間どおりに開始出来ず、これが“山口時間”といわれていた。



作品の一部とパターンの数々

## 「有馬籠」の特色

菱木籠：有馬籠の代表する籠で四隅を有する長方形で、「米国のクリスマスセールの缶詰籠」や「ピクニックバスケット」「キャンディ籠」「買い物籠」などがある。

花生け籠：お茶室などで使用されていた、代表作に「落葉籠」がある。

網代編み(うすもの)：かつてテレビドラマ「おはなはん」(…ご存知の方は少ないかも)で有名になった和装ハンドバックである。



昔の作業風景

## 技の継承

竹にも花が咲き、そして枯れて行く、同種類竹の節数はみんな一緒…。手工業から機械化へ相当努力をされたが…有馬籠の作成から完成まで機械が7割を占めなければ、機械化の意味がなかった。生産過剰の調整、竹林の保有管理、完成品のカビや虫食い対策等の自然対策に対する作田氏や関係者の努力は想像を超えるものがある。

プラスチック製品に押され、中国や韓国産の輸入品が大量に出回っている今日、若い後継者はいない。中国に渡ってでも「有馬籠」の技を残したいという作田氏の言葉が心にいつまでも焼き付いている。

# わ!わ!わ!

和

話

輪

創刊号

特別養護老人ホーム 山口苑・名塩さくら苑 発行日 平成13年7月7日

和やかな話を輪になって.....

そんな気持ちをこめて

理事長あいさつ

～新たな制度のもとで～



理事長 石津 元康

山々の緑も一層深みを増し、水田の上を燕が飛び交う姿が見られる季節となりました。

地域の皆様方には、これまで山口苑、名塩さくら苑の運営に多大なご助力・ご支援を賜りまして深く感謝申し上げます。

さて、近年の日本の社会情勢は目まぐるしく変化し、経済のグローバル化、高度情報化、

少子・高齢化など時代の潮流は福祉を取り巻く環境をも大きく変貌させております。

昨年は社会福祉基礎構造改革の一環としての介護保険制度が4月から実施され、6月には社会福祉法が制定されるなど、およそ半世紀にわたって築き上げられてきた日本の社会福祉のシステムが大きく変革した年でありました。

高齢者福祉サービスが措置から利用契約制度へと変化する中で、事業者は質の高いサービスを提供するとともに、自らも利用者の視点からその内容を評価し、また様々な要望にも適切に対応してことが求められるようになりました。

しかし、どのように制度が変わろうとも介護サービスの基本は質の高いサービスの提供を通じて利用者の方々に快適な生活を営んでいただくとともに、その自立を支援し、あたたかいふれあいの中で十分なケアができるよう、介護技術のレベルアップに努めてまいりたいと存じます。

21世紀は共生の社会といわれ、共に生き、共に支え合う社会の基盤づくりが求められており、これからの施設は、地域社会の構成員の立場から地域との連携を一層強化し、様々な交流活動を通じて、その社会性を高める努力を怠ってはなりません。

当法人も地域社会の一員としてその一翼を担い、地域の方々に愛され、信頼される施設づくりに努めてまいります。

この「わ!わ!わ! (和・話・輪)」が施設と地域との懸け橋となることを願っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



山口苑



名塩さくら苑



社会福祉法人  
慈仁会